

## 第7回道泉地区協議会 結果について（報告）

日 時	平成30年4月16日（月）19:00～20:30 於：道泉地域交流センター
出席者	【地域力推進協議会】23名 【教育部】教育部長、学校教育課長、学校教育課主幹、学校教育課専門員、 学校教育課主事 【経営戦略部】経営戦略部長、政策推進課長、政策推進課課長補佐、政策推進課主幹 【市長直轄】まちづくり協働課課長補佐
配布資料	別添のとおり
<p>【議題】※司会進行：道泉地域交流センター長</p> <p>1 あいさつ センター長より挨拶がされた。 涌井教育部長より挨拶がされた。 経営戦略部長より挨拶がされた。</p> <p>2 協議及び報告事項</p> <p>(1) 構成員について 事務局から、本日は協議会役員、各グループ代表者、小・中学校代表者、地域代表者併せて23名の出席があることが報告された。</p> <p>(2) 小中一貫校の取り組み状況などについて</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○ 小中一貫校の校名について 3月22日に校名発表セレモニーを行った。校名は深川小学校6年生から応募されたもので、「にじの丘学園 瀬戸市立にじの丘小学校 瀬戸市立にじの丘中学校」となった。</li><li>○ 小中一貫校の施設について 映像にて施設のイメージビデオが紹介された。</li><li>○ 平成30年度の進め方について<ul style="list-style-type: none"><li>・ 平成30年度からは、より具体的な内容を決めていく段階に入るため、話題によっては関係が深い方々と、具体的な協議を進めていく必要があると考えている。</li><li>・ これは、3月議会において道泉地区協議会の進捗についての質問で、協議事項（決定されていない事項）が既に決まっているかのような質問がなされたことや、保護者から、協議中の内容が決定事項であるかのような情報、更には、話題にもなっていない怪情報が決定されたかのように噂になっているといった意見が寄せられていることに対して、見直しが必要との整理によるもの。</li><li>・ これからは、地区協議会での情報共有をする点は変わらないが、具体的な検討項目によっては、直接関係の深い方々と協議を進めさせていただき、その結果を地区協議会のみならずと情報を共有させていただくという流れにしてはどうかと考えている。</li></ul></li></ul>	

- ・平成32年4月の開校に向けた予算確保の中には、平成31年度中に用意をしなければならぬものが含まれ、その予算議論は10月から始まることから、10月を目標に、関係者との対話を深めさせていただき、その後、地区協議会のみなさまと情報を共有する形でどうかと考えている。
- ・また、特に関心の高い通学関係については、今年度に使える「通学バスの調査費」の予算を議会で承認されたことから、それを活用しながら、開校に向けた協議を深めていきたい。

### (3) 跡地活用について

- 政策推進課から、資料に基づいて跡地の利用について説明がなされた。
- ・ 公共施設の集約を検討している。現在の利活用はもちろんだが、50年後など将来を見据えて考えていきたい。
- ・ 小学校の整備には、国からの補助金を活用しているため、跡地の利用方法によっては、国に補助金を返還しなければいけない場合もある。できるだけ国への補助金返納は行わない跡地利用ができると良いと考えている。

### (4) 今後の予定について

昨年度までは、会議の際に次回の日時をお伝えさせていただいていたが、本年度からはそれぞれの協議の熟度によって、地区協議会の開催日時を決めさせていただきたい。跡地活用については、秋頃を目途に、各地区における小学校跡地活用の基本的な考え方や方針などをご提示させていただく。

### 質疑応答

事務局：市から今年度の進め方について提案があったが、私自身も地区協議会の進め方を見直す必要があると感じていた。地区協議会の役員で、地区協議会のあり方について早々に検討をさせていただく。

質問1：地区協議会のあり方を変えるとのことだったが、会議の構成員や、話題について現段階で決まっているか。

事務局：市からも提案を受けたところであるが、地区協議会の進め方や構成員については、我々自身も考えていかなければならないことであると感じている。現状では、保護者の方々が中心となる会議とするべきであると考えており、その後押しを地区協議会がする形が良いと思う。

質問2：8月が隣接制度選択制度の締切だったと思うが、それまでにスクールバスに関する新たな情報は提示されるのか。

→回答2：進捗状況によるため、どこまでお示しできるかを具体的に今提示することはできないが、その時点での状況を最大限お示しさせていただく。また、昨年度は延期をした経緯があるが、今年度は延期をすることを考えていない。

質問3：跡地利用について、本山中学校の借地契約はどうなるか。また、跡地利用のリストの中に本山中学校が入っていないが、それはなぜか。

→回答3：本山中学校は現在、民間の土地をお借りしており、お返ししていく方向性であるため、活用のリストに入れていない。

質問4：跡地の活用方法によっては、国庫を返納しなければいけない場合もある。市民のニーズによっては民間の活用も検討できるとの記載があるが、具体的にどのようなことか教えていただきたい。

→回答4：全国では民間企業が跡地を活用しているという事例もある。今回、具体的な事例をお見せすることはできないが、そのような全国の事例を研究し、みなさまにお伝えさせていただく。

質問5：大垣共立銀行が既に道泉地区と本山地区の活用するという話を聞いているが本当か。

→回答5：そのような話はない。

質問6：公共施設の集約候補の中に、北保育園が入っていないが、それはなぜか。

→回答6：北保育園は民間の保育園になるため、今回の公共施設の集約候補には挙げていない。

事務局：我々は、北保育園を集約してほしいということも考えているため、今後要望を伝えていくところである。

質問7：今年の10月に来年度の予算議論が始まるとのことであるが、その中でスクールバスに関する予算の話題は出るのか。

→回答7：これからの予算議論は、平成32年の4月に用意すればよいものばかりではなく、平成31年度末に試行的な取組もしなければならないこともある。例えば、バスの購入やリースの検討が必要で、そうした項目が、平成31年度の当初予算議論の中で取り上げるべき話題になると想定している。

質問8：平成30年10月から次年度の当初予算議論が始まるとのことであれば、それ以降でなければ、スクールバスについては決まらないのか。

→回答8：議論の進捗にもよるが、精一杯努力をしたいと考えている。予算決定のぎりぎりのところまで、調整をしたいと考えている。

質問9：道泉住民としては、スクールバスの問題をとにかく早く決めてほしいと要望をしているつもりであるが、決めることはできないのか。

→回答9：要望書をいただいております、地区の考えは承知しているが、道泉地区以外の4地区との整合性の確保も必要なため、道泉地区だけ先に決めるということは難しい。

事務局：早急に結論を出してもらおうということは、その時点で議論が終わってしまうことになり、それ以上の上積みが出来なくなってしまうことになる。要望書で提出した内容に近づけるためには、ぎりぎりまで議論を重ねることが、道泉地区にとってより良い方向になると考えている。

質問10：施設設計において、車椅子の子どもについての配慮はあるか。

→回答10：エレベーターの設置は既に計画に入っている。

質問11：道泉小学校は築50年以上経っているが、跡地として活用することは問題ないのか。

→回答11：校舎の活用は、耐年数も鑑みながらどのように活用するかを検討していきたい。今後その点についても、お示しさせていただく予定。

質問12：情報が錯綜しているとの話題があったが、市の説明の中にある「検討している」という

言葉を聞くと、受け手側としては、「前向きに検討してもらっているので、それを決定事項になるもの」と自分自身は認識してしまう。

→回答 1 2 : そういった誤解を解消するためにも、本年度は関係の深い方々に対して、正確な情報を伝えたいというお話をさせていただきたいと考えている。

質問 1 3 : 隣接学校選択制度は、今年度の 8 月で終了とのことであるが、他の地域も同様であるか。一部の地域だけ、延長するという話を耳にしたことがあるがどうか。

→回答 1 3 : 他の地域も同様である。そのような噂話のようなものが、みなさまを混乱させてしまう元になっていると考えているため、先ほども申ししたが、本年度からは、関係の深い方々と直接お話をさせていただきたい。

意見 1 : 道泉地区協議会が間違っただけの情報を発信しているかのように聞こえるが、保護者の方から出た話もたくさんあるため、この道泉地区協議会だけが原因ではない。

意見 2 : 地区協議会に出ている方は直接話しを聞くことができるため、内容が理解できるが、参加できない保護者等は、内容が伝わらずに意味がわからないことも多い。議事録が公開されているが、インターネットを見られない環境の保護者もいる。もっと分かりやすく、母親や子どもでも分かるように、説明をしていただきたい。

事務局 : 地区協議会を通して情報を伝えるのではなく、市と当事者の方々が直接話しをすることが、大切だと考えているため、本年度はそのような形で進めていきたいと考えている。

質問 1 4 : 隣接学校選択制度について、市の HP に新しく区分けを変えるというような記載を目にしたが、その内容についていかがか。

→回答 1 4 : 市の HP の記載内容について、誤解を招く記載があるか確認させていただく。

質問 1 5 : 本年度、当事者同士で話を進めていくとのことであるが、具体的に誰を指しているのか。

→回答 1 5 : 対象は、テーマによって変わってくる。テーマによって、参加者が PTA 役員なのか、保護者全員なのかを決めさせていただくことになる。

質問 1 6 : 情報が錯綜する原因として、今回のように資料がないことがあげられる。どのように未就学児の保護者を集めるかなどについても未定なのか。

→回答 1 6 : 本年度、庁内で小中一貫教育のプロジェクトチームを立ち上げており、その中に幼稚園や保育園を所管している部署の職員も入っている。その部署とも連携し、未就学児の保護者へどのように情報を発信するか検討をしているところである。

意見 3 : 貴重な時間を割いて会に出席しているにも関わらず、市から示される情報が少ない。

意見 4 : 道泉地区協議会は今回で 7 回目となる。6 回目までの会議録は地域力の HP でも公開しているし、印刷して閲覧可能な状態にもしている。今後、当事者同士の話し合いについても、会議録などを公開して、情報共有をしていただきたい。

質問 1 7 : 小中一貫校の開校に向けた統合する 7 校の校長会議が行われているとのことだが、その中で通学についての話題も議論されていると聞いた。その議事録を公開していただきたい。

事務局 : 7 校長会議が全ての事項に係る決定権を有した機関というわけではない。この地区協議会とは話題がずれてしまうため、7 校長会議の内容の情報公開を求められるのであれば、別の場で、市に情報公開請求してはどうか。

<p>質問 18 : 平成 31 年度の新入生は受け入れをしないという話を耳にしたが、いかがか。</p> <p>→回答 18 : そのようなことは一切ない。1 名であっても受け入れする。</p> <p>事務局 : 噂で惑わされずに、どうなっているか解らない点があるのであれば、直接市に聞くことが賢明な判断だし、それが、あるべき姿だと思う。</p> <p>意見 5 : 小学生の子どもが、「もうすぐバラバラになってしまう」と言っていた。中学校卒業時は仕方のないことであるが、小学生の言う言葉ではないと感じている。そのことを市の方も知っていただきたい。</p> <p>質問 19 : 本山中学校では、本年度、新入生が入らなかったことによって、現在の新入生歓迎会や、部活動紹介などの行事が無くなってしまっている。行事面で寂しい思いをさせている分、教育面では、しっかりとサポートしていただきたい。</p> <p>回答 19 : 3 月に本山中学校の P T A の方々とお話をさせていただく場面を設けていただいた。その際に、行事も含めて、しっかりサポートをしていくという説明をさせていただいた。</p> <p>質問 19 : 道泉小学校の子どもたちが、小中一貫校に安心して通うことができるように、現在、担任している先生を全員転任させてほしい。また、教員も加配していただけないか。</p> <p>→回答 19 : 教員の配置について、7 校から教員が集まってくるイメージと考えていただいて、概ね問題ない。ただし、教員は県の職員であり、県下統一の定数というものが存在する。その定数の中で配置することになることを理解してほしい。今後の人事異動も含めた教員配置に関する検討の中で整理することになる。</p> <p>質問 20 : G C T V (ケーブルテレビ) で一貫校のことが放送されているが、そのことを地区協議会で伝えられていない。そういったことも情報が提供されていないという点で挙げられるのではないか。</p> <p>→回答 20 : これまでの道泉地区協議会に G C T V のカメラが入っており、他の地区でも、同様に取材されている。G C T V の放送についての積極的な P R はしていなかったが、既にご認識させていただいていると認識していた。</p> <p>意見 6 : 間違っただ情報がたくさん錯綜しているとの意見が出されているが、この地区協議会に参加しているメンバーは、その情報が間違っていると判るはずであり、「その情報は間違っている」と訂正する姿勢と責任があるのではないか。</p> <p>意見 7 : その気持ちは分かるが、地区協議会以外で勝手に決まっているのではないかという気持ちになっている。</p> <p>意見 8 : 決まった事項については、まずは地区協議会に知らされるはずである。噂話に惑わされないように、解らないことがあるのであれば、市に聞けば教えてくれるはずである。情報を待つだけでなく、解らないことは自分達から確かめたり、聞いたりする姿勢を持ちたい。</p>	
<p>備 考</p>	